

平成28年度 近事研学校事務セミナー報告

## 「学校財務を切り口とした地域とともにある学校づくり ～参画と協働を生み出す学校事務職員の役割～」



新潟市立東山の下小学校 事務長（事務主幹）松野 千恵美 様

平成29年1月19日、大阪府教育会館（たかつガーデン）にて近事研学校事務セミナーを開催しました。講師に、新潟市立東山の下小学校 事務長（事務主幹）松野 千恵美様をお招きし、「学校財務を切り口とした地域とともにある学校づくり～参画と協働を生み出す学校事務職員の役割～」という演題でご講演いただきました。



まず、新潟県における学校事務職員の状況について説明していただきました。共同実施を切り口に学校経営への参画の道を探り始めた新潟県では、学校事務とは学校

を経営するためのすべての機能である、つまり「学校経営＝学校事務」であると捉え、共同実施の目的を、「学校の事務業務の改善で学校経営力の強化を図り、学校教育に貢献すること」としました。その後、共同実施の広がりとともに、「事務主幹」「総括事務主幹」といった新たな職が設置され、「標準的職務通知」が出されました。その通知に「学校事務職員は学校マネジメントを成立させるための重要な学校経営担当職員である」と明記されたことが大きな励みとなりました。

では、マネジメントスタッフとしての役割を果たすためには具体的に何をすればよいのでしょうか。新潟市では、学校マネジメントを「学校における資源・人・もの・時間などを最大限効果的・効率的に活用することにより、子供たちに良質な教育を提供し、教育効果を上げること」と学びました。まずは、事務職員の職務である財務（お金・もの）に積極的に携わることで、情報など学校全体も動かすことができると考えられます。そして、①現状認識の数字的裏づけ、②課題解決のための予算の重点化、③意思統一のための情報

管理ができることから「事務職員が参画する学校経営が戦略的学校経営になる」という心強い言葉を校長先生からお聞きした経験も紹介してくださいました。

さらに、ご自身がされている財務の取組について、実際に使用されている提案資料をもとに説明していただきました。学校予算は学校職員全員で共有する必要があるとして、職員とともに予算を考えるための手立てを教えてくださいました。例えば、予算計画を立てる際には、教育の重点を明確化し予算編成方針を明示することで財務委員会が教育活動の話し合いの場になり、カリキュラムマネジメントにつながっていきます。また、学校全体の予算を「見える化」し、数値で学校の姿を明らかにする工夫をされていました。

事務長の仕事は「みんなにメリットのある提案をすること」との考えのもと、学校や地域の課題にも積極的に取り組んでおられます。例えば、環境整備に6年生の意見を取り入れたり、近隣校とともに諸校費の未納対応マニュアルを作成したりして、事務長としてできることを常に考えておられる姿勢に、今後の事務職員のあり方のヒントをいただいたように思います。

最後に、「私は、仕事の手を止めたときはいつも、何かできることを探している。それは、かつて祖父が『何か、ええことないかいな』とつぶやきながら新聞をめくっていたことに似ている。『ええこと』とは『心を動かされること』で、それを今、学校の中で探しているように思う。みんなで『ええこと探し』をすることで、全国の学校が元気になってほしい」と締めくくられました。



（文責 毛利 美徳）